

はじめに

この社会において、あるいは自分自身において、どのように解決したらいいかわからないことが渦巻いている。

自分の体調や感情のままならなさ、ストレスで食欲がコントロールできない悩み、数年前にフェミニストの友人がトランス女性差別に囚われ私（たち）との音信を絶ったこと、労働賃金が全然追いつかない物価高状態、台風や地震などの災害、それらの災害を契機に引き起こされる人災、差別が服を着て立っているような極右の政治家（その一人が首相となり「女性初」の冠がついたこと）、イスラエルによるガザの人々への虐殺に加担する企業、沖縄に集中している米軍基地、原発などの誘致や再稼働などであらわれる日本の都市と地域の植民地的関係……個人的にも社会的にも先が見えず、ままならなさばかりがある中で、フェミニストとして生きるとはどういうことなのか。それが、この本のテーマだ。

それでもまずいいたいのは、私にとってフェミニズムは解放の思想だったということだ。

だからこそこの本のタイトルにも「フェミニズム」がついている。自分の内側も外側も同時に広げてくれた解放の思想としてのフェミニズム。だが、これまでフェミニストが間違いを犯さなかつたかといえば、残念ながら決してそうではない。フェミニストも、他の思想信条を持っている人たちと同様に過ちを犯してきた。

その「過ち」はこの本の軸になる部分だ。終章で改めて語ることにして、まずはこの本の構成を説明したい。

「弱さ」という言葉をうっかり語ると日常生活は言うに及ばず、社会運動の文脈においても舐められ、対等な話し相手と見做されない時がある。しかし人間のさまざまな弱さは実際には社会的な背景と結びつく。「弱さ」を個人の資質という問題のみに還元せず「社会的な背景」が結びつくものとしてどのように語りうるか。そのこと冒頭の「おのが社会的弱さを語ること——それを取り巻く力について」で触れている。

次はネットとフェミニズムの関係だ。二〇〇〇年代後半、「web2.0」の時代が来るといわれていた。二〇一〇年以前はYouTubeほど使用されている動画配信サイトやアプリはほとんどなく、またSNSもほとんど使用されていなかった。

しかし二〇一一年ごろを境に、中東のジャスミン革命、あるいはアメリカのブラックライブズマター、香港の雨傘革命といった社会運動を支えた要素の一つにSNSがあった。また

性暴力の被害経験を旧 Twitter（現在の X。これ以後 Twitter と表記されているものは現在の X である）上にて匿名で共有する #MeToo 運動も二〇一七年に誕生した。

しかし今、SNS は社会運動を支える側面よりも、デマを振り撒くツール、ヘイトスピーチが拡散される道具としての側面がより強まっている。

そんな中でフェミニズムがネットとどう向き合ったらよいのかを取り上げたのが、第 1 章の「ネットで学べるもの、学べないもの——フェミニズムって何だろう？」である。自分より若い人に語り掛けるイメージで書きたかったので、この章の文末は「です・ます」と敬体の文章にしている。

第 2 章の「自分を変えること、社会を変えること——フェミニズムを生きるって何だろう？」では、私たちの生活の中で耳にする言葉と状況……コンプライアンス、インボイスといった制度を通して自分を省み、そして社会を変える実践について語っている。

第 3 章の「変わったこと、それでも変わらないこと——凍りついたままの時代から」では、「氷河期世代」と呼ばれる世代に生まれたフェミニストとしての視点から、氷河期世代として現在問題になっていることが、実は世代に限定された問題ではないということ提起している。日本においてそもそも低賃金、不安定待遇という労働状況は、女性や外国人などのマイノリティにとって「初期設定」である。一時期のみが氷河期だったという話ではなく、今

なお凍りついたままなのではないかと問いたい。あるいは凍りついたままの時を生きる人間がどんどん増えていっているのではないだろうか？

そしてラスト……「暗中模索」の現実を見つめ、この言葉をかみしめることで、何が見えてくるのかを語りたい。

この本は過去の連載その他の文章をまとめているという事情もあり、章ごとに整然とテーマが区分けされているわけではない。むしろ先に述べたような主張が章を超えて散りばめられている。また私自身の不登校の経験といった出来事についても頻繁に触れていることをお許し願いたい。

また今や忘れられつつある「コロナ禍」の時期に書いた文章も含まれているので、その頃にあったいろいろなことにも触れている。これを読むことでこの数年間を振り返ることが可能だろう。人間は忘れてしまう生き物だとしても、何を忘れて現在を生きているかということとを振り返り、今自分がどこに立っているかを確かめることが、私は必要だと思っている。